

DATA FILE



名前	CHAROITE (チャロイト) / チャロ石
化学組成	$(K, Sr, Ba, Mn)_{15-16} (Ca, Na)_{32} [Si_{70} (O, OH)_{180}] (OH, F)_4 \cdot nH_2O$
色	紫色
光沢	絹糸光沢
蛍光	非常に弱い青色
条痕	白色
劈開	明瞭
断口	不規則
硬度	5 ~ 6
比重	2.5 ~ 2.6

※いくつかの化学式が提唱されているため、ここではそのうちのひとつを掲載しています。

チャロ石

CHAROITE

チ

ロシアのアルダン地区が
原産地で、現在のところ
原産地のみで産する。

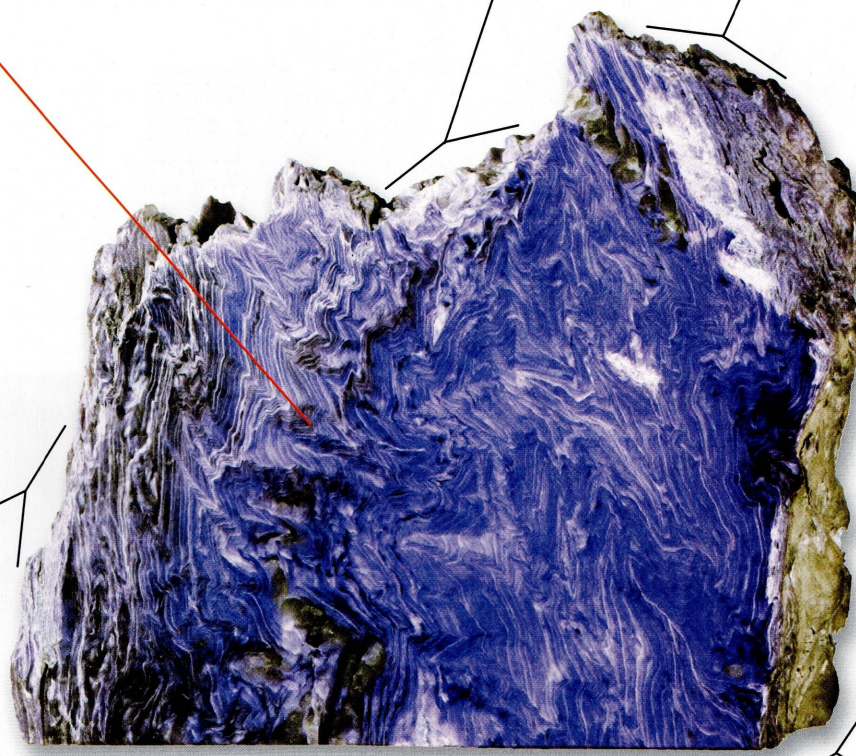
絹糸のような光沢
を持つ。

ロシアで産出した
紫色のチャロ石。

繊維状結晶の
緻密な集合体
であられる。

素焼きの陶板にこす
りつけると白色の条
痕が残る。

劈開は明瞭で、ハン
マーでたたくと不規
則な断口を示す。



ミネラルファイル

ケイ酸塩鉱物

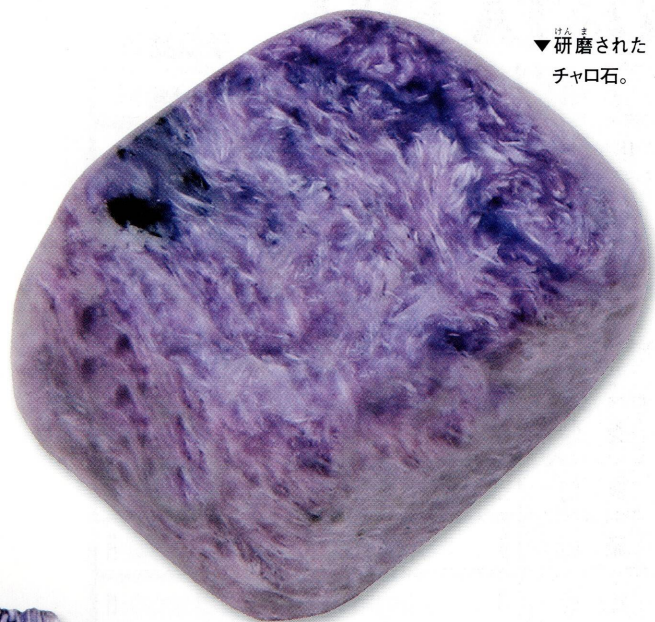
シベリア産の紫色鉱物

チャロ石は、シベリアのアルダン地区を流れるチャロ川流域で発見されたケイ酸塩鉱物で、紫色の繊維状結晶が緻密に集まった集合体で産する。紫色は含まれるマンガンによるものと考えられ、黒色のエジリンや白色の長石をともないマーブル模様のような外見であられることが多い。この鉱物は1950年頃に発見され、当初は既存の角閃石の一種とされていたが、ロシアの女性鉱物学者ベーラ・ロゴワが新種の可能性に着目して研究を進め、1978年に新鉱物として発表されるに至った。

チャロ石



▼チャロ石は繊維状結晶の緻密な集合体で産出する。



▼研磨されたチャロ石。

魅惑の石

「チャロ石」という鉱物名の由来は、一般的には産地である「チャロ川」を語源とすると言われているが、実際はその美しさに感嘆した女性鉱物学者がロシア語で「魅惑する」を意味する「チャロ」から名づけたというのが真相のようだ。チャロ石は新種として発表される以前から彫刻などに用いられ、近年はパワーストーンの世界でも人気を集めている。

主な産地



ロシア



シベリアのアルダン地区が原産地。

▶マーブル模様を呈するチャロ石。

